

新年ご挨拶 相談役会長 戸沼 平八



“北海道に新幹線がやってくる”  
 新年明けましておめでとうございます  
 昭和63(1988)年に青函トンネルが開通し、やがて北海道新幹線がやってくると云われて28年が経過しました。新函館北斗駅の位置が現在地に決定し、北海道の新たな玄関口として3月26日にはその新幹線がやって参ります。

新幹線の開業についてはいろいろ云われていますが何と言っても新時代の始まり、新しい変化の時代の始まりです。

青函トンネル発想の源は、昭和29年に連絡船「洞爺丸」が台風の接近によって沈没し多数の犠牲者が生じたことにあります。

そこで青函トンネルの必要性が叫ばれ、昭和39年に着工しました。トンネルの規模は全長53.85km、海面下240m、完成までに40余年の歳月がかかり、人々の熱い情熱、英知、技術が生み出した世紀の大事業でした。青函トンネルが完成し北海道新幹線が開業するまで実に約70年の歳月を要したことになります。

新幹線効果についてはいろいろ議論されているところですが、まず観光関連産業は外国人の観光客を含め大きな経済効果が期待されます。それに伴い、農業、水産業の振興が期待されます。

道南の経済効果は大きなものが期待されますが、残念ながら建設産業への波及効果はあまり期待できません。

しかし、宮城県で仕事をしている私どもの会社にとっては、札幌へ行くよりも、仙台への時間的アクセスが短縮され、利便性の向上によって、間違いなく日帰り圏内になります。

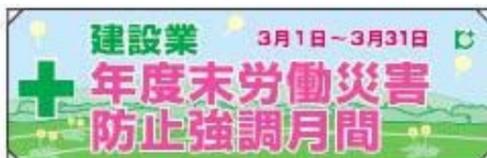
このことによって、東北や北関東各県との付き合い交流も盛んになるものと期待されます。新時代始まりの所以(ゆえん)です。

さて、平成28年がスタートしました。正月早々国会が開会され、補正予算並びに新年度予算の審議が始まりました。

会社の営業面から見れば1-3月で受注の総額が見えてくる大事な第四半期です。また今年に繰り越された工事も多く、工期の設定が厳しいものもあり、3月までが勝負です。

年度末の追い込み時期に入って日も長くなり、仕事のピッチも上がると思いますが、『安全で良い仕事をする』という当社の理念を大切に、無事故で評価の高い工事の完成を期待します。

今年も皆さん一人ひとりが、それぞれの持ち場でやり甲斐と生きがいを感じられるような仕事ぶりを期待して新年の挨拶いたします。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



**安全と衛生**

戸沼岩崎建設株式会社 発行  
 平成28年1月15日  
<http://www.tonuma.com/>  
 第214号

向春号

**労働災害発生のメカニズムを考える**

労働災害が起こって一番つらい思いをするのは受傷者本人であることは言うまでもありません。

では、建設業で同じような災害が繰り返されることの原因はどこにあるのかを「ヒューマンエラー」の側面から考えてみましょう。その前に断っておきますが、災害の原因は全てヒューマンエラーのせいにしてしまうのはありません。

ここでは「人はなぜ間違えるのか」というヒューマンエラーを引き起こすヒューマンファクターを理解することから、エラー防止のための効果的な仕組みを考えてみます。

伝統的に我が国では、事故が発生すると誰が悪かったのかを調査して原因に関与していた人物を処分して一件落着とする傾向がありました。これは結果だけに注目して、その事故が起こった原因と背後の要因を調べる活動を阻害してしまいます。



これは不本意に起きた「事故事象」と故意に起こされた「犯罪行為」とを混同する誤りから起こる現象なわけです。

「事故」というのは、故意に起こされるものではなく、ほとんどのケースは、むしろ事故を避けようと努力していたのに、危難を回避できなくて事故に陥ってしまった、と考えられるわけで、犯罪行為とは明確に区分しなければなりません。

これに対して、事故の原因や背後の要因を探って、「誰が悪かった」のではなく、「何がかけていたのか」を明らかにして、そこから教訓を得て、同じような事故の再発を防ぐ考え方がマネジメントシステムとして当社で展開されています。これが危機管理の基本的な考え方です。(対策指向型危機管理)

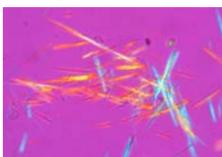
ヒューマンファクターの背景を考える際のキーワードは「エネルギー温存の法則」です。これは私たちが仕事をするときに、なるべく自分の力を温存して、最良の結果を得ようとすることにあります。それが「道具を利用する」「手抜きや近道行為をする」「手順を省く省略行為をする」ことに繋がります。

加えて私たち人間の特性として「不注意」と「錯覚」を伴っています。「注意」とは意識を集中している状態を指しますが、「注意」が「不注意」に転じたときに、危険作業や状態と重なり合って事故や災害に結びついてしまいます。

一方「錯覚」とは「思い違い、見間違い、聞き違い」のことで、「確認・判断・決定・操作」のミスやエラーの発生につながります。このことから、「人間はミスをする」「機械(設備)は故障する」を前提に、「対策指向型」の管理策をそれぞれの作業所で立案していただきたいのです。

**“痛風”に効く食べ物をどうぞ..**

そよ風が当たただけでも痛いことから名付けられた、激しい痛みをとまなう病気ですが、その原因は体内で作られる尿酸にあります。細胞の中にあるプリン体が分解して、血液中に多くなると結晶化して関節に沈着し、腫れと痛みを引き起こします。プリン体は、食物では特に肉類やモツ類、ビールなどに多く含まれるので“贅沢病”とも言われています。予防と改善には、尿の出を良くして尿酸の排泄を良好にすることが大切になります。



尿酸結晶

さて本題に移りますが、今回お勧めの食べ物は今が旬の紫イモとミカンです。



紫イモには紫色色素のアントシアンを多く含んで、尿酸を分解する効果があり、ミカンには尿酸の生成を抑えてその値を下げる作用の成分が豊富にあるということです。また、どちらの食べ物も利尿作用のあるカリウムが豊富であるとともに、血液を弱アルカリ性に保つ作用を併せ持っています。

この時期、体を冷やしがちになりますが、ゆっくりとした運動で代謝を徐々に上げることも痛風に有効のようです。

**“酸欠危険作業” 特別教育を実施しました**

旧中の沢ごみ埋立処分場の污水管を移設する工事に先立ち、12月19日当社研修室において、「酸素欠乏症等特別教育」を実施しました。工事は、立て坑を掘削して新たな排水管を推進工法によって設置するのがメインです。その際、場所柄、硫化水素やメタンという有害なガスの発生が予見されるため、実作業に当たる11名の皆さんに“酸欠”の怖さを熟知してもらうため行いました。

労働安全衛生規則36条には、「危険又は有害な業務」に就かせるときは特別教育を実施しなさいという規定があり、労働安全衛生法施行令には酸欠の危険場所が指定されています。



当日は酸欠の原因、酸欠の症状、緊急時の対応、防止のための管理策など、休憩をはさんで6時間耐えてもらいました。

“痛風に効く食べ物”の補足を少々..  
 血液を弱アルカリ性に保つ作用の多い部分は、紫イモでは皮、ミカンでも皮なんだそうです。どちらの皮も漢方薬に用いられているほど効用があり、イモの皮はそのまま食せるとして、ミカンの皮はちょっと..ですよね。ミカンは南方の果実で体を冷やしますから、こんがり焼きミカンを皮ごと食べてみてください。